

こらっせ便り



2016年9月9日

【編集・発行】「福島子ども・こらっせ神奈川」

TEL : 045-353-9008

Eメール : info@korasse-kanagawa.org

「こらっせユース」は行動し、そして思った

「こらっせ便り 特別版」として、今年度の「神奈川リフレッシュプログラム」を支えてくれた「こらっせユース」の感想をお届けします。スペースの関係上、全員の感想を報告書に掲載できないので、「こらっせ便り」を出すことにしました。こらっせのプログラムが始まって5年が経過し、5回すべてに参加している人、4年、3年、2年、そして今年初めての人、それぞれ抱く感想が違います。今年は、経験者のユースが現場を仕切る姿が目につき、頼もしく感じました。子どもたちのみならず、若い人たちが成長していく姿を見ることは、事務局スタッフ一同の喜びでもあります。



丹沢湖ロッジで記念写真

見えてきた課題

今年も多くの子どもたちが、こらっせのプログラムに参加してくれることになりました。震災から五年以上を経た今でも、そしてこれからもますます、こうした保養プログラムの必要性が高まっていくことを改めて感じました。

今年は、例年と比べて年少の子どもの参加が多く、また学生ボランティアも1年生や2年生が多く加わってくれました。また、丹沢湖ロッジでのキャンプや、学生主体のキャンプファイヤーなど、新しい参加者、新しい試みを通じて、こらっせの活動にさらなる広がり可能性がもたらされたように思います。

しかしまたそれとともに、プログラムを円滑に進める上での新たな課題も見えてきました。こうした反省点も踏まえて、来年は一層の充実を図ることができればと思います。(清水 雅弘)



仲良く手をつないで



ウォークラリー「ポケ問GO」

あっという間に過ぎた3日間

初めてこらっせに参加させてもらってすごく楽しく、神奈川県 naturally、子供たちの元気な姿に圧倒されました！

1日目、山北について疲れてるかと思ったら子どもたちは元気でまだまだ遊び足りなさそうな感じでした！夕食で苦手なものが出て食べれないと言っていたある子はすごく頑張って嫌いなナスを食べて感動！

2日目の夕飯は3人とも頑張って完食してくれてほんとに嬉しかった！！

横浜散策では、NちゃんとMちゃんが手を繋いで歩いていて仲良くなれてまた来年も会いたいと言ってほっこり。

3日間はあっという間過ぎてもう少し遊びたかった！来年はグループの子と仲良くなりたいです！

(濱本 もも)

幼い頃に戻ったように

はじめは子どもたちとなじめるか不安でいっぱいでしたが、(品川駅から)合流直後の電車の中で小4の2人が色々な話をしてくれて、私も自然に話すことができました。ウォークラリーにおいて、三保小の子を含め、班のみんなが疲れたと言うこともなく暑い中頑張って歩いてくれたので、楽しくゴールすることが

できました。最後の昼食のときに、担当の子たちが『苦手なものを一緒に食べよう』と言って、せーので頑張って食べている姿を見て、小学生とは思えないほどしっかりしている一面も目にすることができました。

2泊3日の間、自分も幼い頃に戻ったように楽しむことができました。また、ハードスケジュールの中、ばてることなく最後まで笑って遊んでいる子どもたちを見て、本当にこのリフレッシュプログラムを楽しみにしてくれていたんだと実感しました。この3日間が、夏休みの思い出の1つとして子どもたちの心に残るものとなっていたらとても嬉しいです。(内貴 杏奈)

3年目のこらっせ

今回自分にとって2つの大きな挑戦がありました。1つは、全体のプログラム進行、もう1つは、こらっせ史上初めての学生主体のキャンプファイヤーです。初日に行われたキャンプファイヤーでは、学生スタッフみんなで協力して、参加者全員の心を1つにするような思い出に残るものを創り上げられました。



2016年度のリフレッシュプログラムは、初参加の学生スタッフも多かったのですが、先輩たちから引き継いだ伝統と新しい風が融合し、素晴らしいリフレッシュプログラムになったのではないかと思います。支援をしてくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

(岩成 銀河)

ウォークラリー「ポケ問 GO」



2年目のこらっせでは、1年ぶりに会う子ども達に背が抜かれていたり、一段と大人っぽくなっていたり、成長を感じることが出来ました。ウォークラリー「ポケ問 GO」では、溶けるような暑さの中、地図を持ち、次の事務リーダーの元へ「暑い」「もう疲れた」と言いながらも元気よく歩く姿が見られ、子どものパワーを感じました。道を間違えるというハプニングもいくつかありましたが、全員が全ての問題をクリアすることが出来て良かったです。

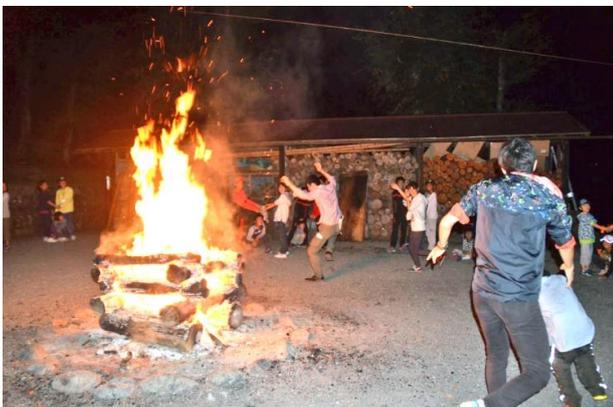
(梅津 彩)

子どもたちの成長を感じ



今年は班付きとしてではなく、自由に動く役割を担当しました。去年も参加していたため子供たちの成長や変化を感じ、とても嬉しく感じました。また、今年から新しく試みた丹沢湖ロッジではキャンプファイアや繋ぎのレク、そして2日目のウォークラリーを担当し、実際に子どもを引き込むことの難しさと、1年間教育学部で培った能力が助けになることを痛感しました。(菅田 薫)

一番は「川遊び！！」



みんなで弾けたキャンプファイア

子供たちに何が楽しかったか聞いたところ、すかさず「川遊び！！」と返ってきました。川に入る前は躊躇していましたが、入ってからは全力で楽しんでいたように感じます。普段は入ることのできない自然のプールが印象に残るのかなと思います。



最終日の横浜散策ではランドマークタワーから見る景色にみんなそろって感動しました。華やかな横浜を感じつつ、地元の温かさを再度実感したようでした。私は二度目の参加でしたが、子供たちの明るくはしゃぐ面と、それぞれ思いを抱えている面があることを改めて感じた3日間でした。サポートしてくださった方々、ありがとうございました。

(松田 優希)



楽しかったスイカ割り

今回は初めてのこらっせ参加であって会議などにもなかなか参加出来ずに本番を迎えてしまい不安なことがすごく多かったのですが、事務局のみなさんや先輩たちに助けられて何とか終わられてよかったです。子供たちに班付きとしてついて3日間を過ごしてたくさんの子供たちの笑顔や頑張る姿を見ることができたことはすごく嬉しかったです。担当したスイカ割りに関しては思っていたより場所が狭くてスムーズにできなかったのですが楽しそうにやってくれたのでよかったです。この3日間で自分もいろいろなことを学び成長する事ができた気がするので充実した時間となってよかったです。

(高田 隼矢)



共同行動の難しさを学ぶ

私が担当したスイカ割りは、棒のほうに先に割れるというハプニングもありましたが、子どもたちの心から楽しんでいる姿を見ることができました。私の班は、三日目の自由散策時に、やりたいことを言えず我慢していた子どもが一人泣いてしまうことがありました。他の班メンバーに事情を説明し、無事仲直りすることができましたが、様々な性格の子がいる中で、うまく仲裁して共に行動する難しさを学びました。(鈴木 香瑠)



ウォークラリー「ポケ問GO」

また参加したい！

私達が担当した花火大会は皆が楽しんでくれたの

で良かったです！例年の手持ち花火と線香花火に加え、今年は打ち上げ花火も行いました。子どもたちには危険もあるので学生スタッフが点火しましたが、子どもたちも盛り上がってくれていたのが成功だったと思います。全体的に見ても、元気いっぱいの子もたちと触れ合うことで学生スタッフも笑顔が溢れていて、とても良いプログラムだと改めて感じましたし、また参加したいと思いました！！
(梅澤 賢之)

とても充実した3日間！

2日目の夜にみんなで花火をしました。私たちが花火を準備する時から子どもたちが手伝ってくれてとても心が温くなりました。今年はたくさんの打ち上げ花火も行い、子どもたちと様々な種類の花火を楽しみました。相当楽しかったようでたくさんあった花火もすぐになくなってしまいました。最後の線香花火までみんな学生たちと共に楽しんで花火をやっていたように感じました。

今回私は初めてこらっせに参加させてもらいましたがこの3日間で子どもたちから学ぶこともたくさんあり、とても勉強になりました。ふくしまの子どもたちから逆に元気をもらったような気がします！とても充実した3日間でした！

(藁科 早百合)

東北の子どもたちを笑顔に

東北の子どもたちを笑顔にさせよう、楽しませよう、と参加したこらっせですが気がついたらいつもこちらが楽しませられ、笑顔になっていました。すごく元気な子どもたちばかりで上手い出来ないことも多くあり、周りの方々の助けなしでは絶対に成功はしなかったと思います。また子どもたちの笑顔の裏にある家庭の事情などを知り、3日間だけでも一瞬一瞬を楽しみ、そして甘えさせてあげたいと思いました。

自分も子どもと触れ合うことで様々なことを学



みんなではしゃいだ川遊び



最後の締めはスイカ割り



三保小の友だち、ありがとう

び成長できたと思います。来年、また子どもたちと再会したときに「～ができるようになったよ!」とか「こんな夢ができたよ!」とかいろんなことを聞いたら、そして子どもの成長を間近で見ることができたらいいな、と思っています。(杉野 迅)

深まった交流

今年のリフレッシュプログラムは、福島っ子と三保小学校の児童との交流が今まで以上に深かったことが印象的でした。キャンプファイヤー、川遊び等2日間続けて多くのイベントをともに楽しみ、一緒に過ごす時間が長かった中で、子どもたちの距離も縮まったのではないかと思います。最後のお別れときには「また会おうね」という声も多く聞こえ、今後も福島と神奈川の子どもたちの交流の場を設けていきたいと感じました。

(窪田 桃子)

保護者の心配を知って

プログラム初日、いわきへ子どもたちを迎えに行きました。その中で、初めて保護者の方々とお話をすることができ、保護者の方がプログラムに期待してくださっていることや、やはり子どもを送り出すのは心配なのだということを知りました。

そのため、最終日に笑顔で帰っていく子どもたちを見たときは、ほっとしました。楽しかったこと、大変だったこと…一人一人が様々なことを経験したのではないかと思います。

家に帰って、3日間できたたくさんの思い出を、保護者の方と話せていたら嬉しいなと思っています。

(影浦 あゆみ)

こらっせユースの成長

“学生”として参加できる最後のこらっせであったにもかかわらず、就職活動のために、殆ど関わられて



横浜みなとみらい散策

いませんでした。そのため、今年は学生と事務局の中間的な立ち位置に身を置き、客観的な位置でプログラムに参加することになりました。

そうした中で、最も感動をしたのは、「成長」でした。もちろん昨年度参加してくれた子が、今年度も参加してくれたことや、身長が伸びたり、声変わりをしたりなどの“目に見える”成長を間近で感じられたこともそうですが、それ以上に、こらっせユースの成長が、目を見張るものがあったためです。

特に、いい意味で「私たち先輩が必要とされなかった」時には、少しの寂しさもありながら、頼もしさと尊敬のまなざしが芽生えていました。具体的にはキャンプファイヤーでのこと。これまでは事務局の方が見守りながら、あるいは先輩方が黒幕として先回りをしながらなんとか進行するのが常でしたが、今年は完全に学生のみ、それも一人が抱え込むのではなくて、学生同士協力をしながら進めており、こらっせユースが強いチームへと成長していく姿を目の当たりにし、自分自身が前線から離れることへの寂しさがある一方で、今なお困難を強いられる福島の実状に対して、強いチームで、アプローチをし続けられることへの期待が芽生えていました。

来年度からは、本格的に「事務局のおじさん」として、こらっせに携わることとなりますが、私自身が4年間通して、考えたこと、感じた事、見えて来たものを、次の世代の学生へとバトンを繋げるよう、尽力していきたい次第です。

(駒木根 怜)

もう一步踏み込んで

毎年、こらっせに参加する子ども達の顔を見るのがとても楽しみです。今年は、仕事終わりに車で約1時間かけて山北に向かい、プログラムへの参加は約2時間、というハードスケジュールでしたが、子ども達に会えたことで元気をもらって帰ってきました。特に、こらっせユースには、プログラム当日の活躍とパワーに驚かされました。



横浜みなとみらい散策

プログラムが立ち上がって5年が経ち、参加したユースの約半分も社会人になりました。それぞれが違う忙しさと戦う日々ですが、ユースや事務局スタッフの外部での活躍や色々なお話を伺う中で、自分もまだまだ頑張らなければと刺激されます。特に、福島の現状や問題点について、もう少し勉強していかなければと感じています。社会人2年目となり、やっと周りが少しずつ見えてきました。自由な時間を使える今こそ、もう一歩自分で踏み込んでいくことが今後の目標です。こらっせを始め、福島には自分の強みを活かして、形が変わっても関わっていきたいと思っています。(横山 満里奈)

またお会いできることを

今回の三日間のプログラムを終えて、学ぶ点が多く貴重な体験をさせていただきました。その中でも特に、子どもたちと関わるなかで、興味をひいてもらい楽しめるような工夫や、しっかり注意すべき所は注意することなど、改めて大切なことだと学生さんの姿から感じました。また、私自身、学生スタッフとの交流が全体的にみて、できなかった部分があったと思います。そういう意味では、学生スタッフとのきっかけ作りができればよかったなと思いました。そして、体力面できつかったときがあったので、体力がないことも実感しました。最後に、今回のプログラムでまたお会いできるのもよいかと思えます

が、また違った形でお会いできるのもよいのではないかと思います。(井出 優斗)



★井出さんは今年4月から榎葉町社会福祉協議会の新人職員として働きはじめ、社会福祉協議会のご好意で、「こらっせ」のプログラムに派遣していただきました。温厚で誠実な人柄が印象的でした。今は榎葉町の住民の家をまわる「支援員」としてのお仕事をしていて、偶然にもこらっせのプログラムに継続して参加してくれていたS君の家が担当だと知り、ささやかなお土産をこつづけたところ、早速、受験勉強中のS君から電話がありました。井出さんが翌日届けにしてくれたのです。S君は大学生になったら「こらっせユース」として神奈川に来てくれるとか。井出さんがつなげてくれた「こらっせ」の糸です。「こらっせ」の糸が若者の間で、幾重にもつながることを願って。

(事務局)